

高浜 虚子(たかはま きよし)

資 料

短冊『落椿 投げて暖炉の 火の上に 虚子』

作 者

1874(明治7). 2. 22-1959(昭和34). 4. 8

伊予尋常中学時代から河東碧梧桐とともに正岡子規に俳句を教わる。明治31年柳原極堂から「ホトギス」を引継ぐ。後に俳句の理念として「花鳥諷詠」や「客観写生」を主張し有季定型を保持する「守旧派」として碧梧桐と激しく対立する。

参考文献

『虚子自伝』(高浜虚子／著 菁柿堂 1948

[地域 K93. 4/16(50380559)])

『高浜虚子 人と文学』(中田雅敏／著 勉誠出版(日本の作家100人) 2007. 8

[県立 911. 36SS/872(22092464)])

『定本高濱虚子全集(全16)』(高浜虚子／著 毎日新聞社 1973-5 [県立 911. 36/135/1-16])

